

中学一年のとき夏の休暇を利用して旅行したことがあります。最初に行ったのは佐賀県伊万里から来ていた大渡清次君のところでした。次に行ったのは県下、南高来郡北有馬から来ていた吉田 豊君のところでした。吉田君のところから帰るときは長崎まで歩いて帰りました。里程表では長崎県庁まで二十一里三丁、今での計算では約八十五キロぐらい、そこを朝、北有馬を出て歩いて帰りました。途中、小浜までの道を尋ねたとき、長崎まで帰るといったらびっくりしていました。高下駄：歯が二つついている高下駄の歯がすれてしまい、台まですれていたのです。翌日はさすがにちよつと足がこわばっていました。

二年のときの夏休みも旅行に出かけ、こんどは吉田君のところへ行きました。帰るときは吉田君といっしょに雲仙岳（一、三六〇m）に登り、そこで別れて吉田君は自分の家の北有馬へ、私は小浜へ降りました。小浜には吉田屋旅館という旅館に母と兄がいるためでした。兄は京都の第三高等学校（旧制）に入学許可になっていたのですが脚気のため学校が始まっても行けず、脚気は転地すればよいとのことで母に連れられて南高来郡の小浜温泉に来て、吉田屋旅館に泊まって養生をしていたのです。私は日は暮れかかるし走って下ったのですが、吉田屋旅館に着いてみるとその日に長崎に帰ったということで母も兄もいませんでした。

中学三年生のときでした。担任の先生は高巢庄太郎先生で西洋史の先生でした。先生が六週間現役とい